

事後評価書

箇所名	二級河川 大堀川		事業名	総合流域防災事業	課名	河川課
事業概要	工期	S56年度～H22年度	全体事業費 (下段:前回)	4,812百万円(負担率:国0.5:県0.5)		
	(下段前回)	S56年度～H23年度		5,123百万円(負担率:国0.5:県0.5)		
事業目的 及び内容	<p>(1)事業目的</p> <p>大堀川は伊勢市、明和町、玉城町の市町境界に位置する平地河川で、その源を明和町と玉城町の境界にある丘陵地に発し、水田地域を貫流しながら伊勢湾に注ぐ二級河川です。</p> <p>大堀川沿川の浸水被害を防止するために、河道拡幅や堤防のかさ上げ、河床掘削等の改修を行い、流下能力の確保および治水安全度の向上を図ることが当事業の目的です。</p> <p>(2)事業内容</p> <p>事業区間延長：3,540m</p> <p>① 築堤工 L=6,000m、②掘削工 V=107,000m³、③護岸工 L=6,000m</p> <p>④ 樋門・樋管 12基、⑤防潮水門 1基、⑥橋梁 2橋、⑦用地補償 1式</p>					
1. 事業の効果						
(1)浸水被害の軽減状況						
<p>平成21年10月の豪雨では、過去に浸水被害が発生した平成11年6月の豪雨を超える雨量が観測されましたが、家屋浸水被害は発生していません。このように、過去の浸水被害発生時と同等規模の雨量に対しても、河川事業実施後は、川幅が広がり河川の断面が大きくなったことにより河川水位が低下していることから、事業の効果が発現したと考えています。</p>						
(2)大堀川防潮水門の整備効果						
<p>平成5年度に完成しており、防潮水門により高潮発生時の浸水被害を軽減することができます。</p>						
(3)費用対効果						
		区 分	前回評価時(H20)	今回評価時	備 考	
費用	建設費		50.41億円	105.27億円		
	維持管理費		8.82億円	19.95億円		
	合計		59.23億円	125.22億円		
効果		総便益	1,324.49億円	2,136.23億円		
費用便益分析結果 (B/C)			22.4	17.1		
○費用便益比 (B/C) 変化の主な要因						
<p>資産データ等を最新のデータに更新したことにより、想定氾濫区域内の総資産額が増加したことにより費用便益比が増加しました。</p>						
(3)その他の効果						
<p>大堀川の改修事業の進捗にあわせて、伊勢市によって支川の東新堀川の改修が実施され、大堀川流域の治水安全度が一層向上しました。</p>						
2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化						
(1)自然環境への配慮						
<p>自然環境への配慮として、河道が単調とならないようにするため、掘削後の河床にはスポット的に捨石工を施したり、みお筋を尊重して瀬や淵の保全・復元に努めるなど、多様な河川環境の保全に努めました。</p>						
(2)環境の変化						
<p>河川改修工事後5年が経過し、河道内に植生がみられ河床に変化を持った河道となっています。今後、年月が経過すれば河川環境もさらに多様性が増してくると考えられます。</p>						

3. 事業を巡る社会情勢情勢等の変化	
<p>(1) 関連する周辺事業の進捗</p> <p>大堀川の改修事業と合わせて、支川の東新堀川の改修がH23年度に完了しています。</p> <p>(2) 人口等の変化</p> <p>大堀川流域における、伊勢市（柏町）、明和町（赤坂地区、斎宮地区、明星地区）の人口、世帯数は、前回平成20年の再評価時に比べて増加しています。</p> <p>〈人口〉平成6年：5,936人 → 平成20年6,176人 → 平成25年6,251人 〈世帯数〉平成6年：1,679世帯 → 平成20年2,049世帯 → 平成25年2,249世帯</p>	
4. 県民の意見	
<p>(1) 県民の意見の収集方法</p> <p>対象者：大堀川周辺の居住者（大堀川沿川地区の住民：伊勢市柏町、明和町大淀、明和町平尾）</p> <p>調査方法：アンケート方式（調査数：247世帯、有効回答数：191世帯、回収率：77%）</p> <p>(2) アンケートの目的</p> <p>アンケートは河川改修を実施したことによる安心感などを調査し、事業効果の確認や事業に関する課題を把握し、今後の同種事業に反映することを目的に実施しました。</p> <p>(3) アンケート結果の分析</p> <p>河川改修前は75%の方が大堀川のはん濫の危険を感じていましたが、そのうち41%の方が「昔は感じたが今は感じない」と回答しており、河川改修による住民の安心感が向上していることが伺えます。</p> <p>工事に関する満足度は67%の方は「満足」「どちらかといえば満足」と感じ、その理由としては大雨時の浸水がなくなったことへの意見が多く、一方、21%の方は「不満」「どちらかといえば不満」と感じ、その理由として、草刈りの要望や事業の長期間に対する意見が多かったことが挙げられます。</p>	
5. 再評価の経緯	
<p>昭和56年度に事業着手し、平成10年度、平成15年度、平成20年度の公共事業評価審査委員会において、事業継続を了承されています。</p> <p>(H20委員会総括意見)</p> <p>① 河川事業において、事業効果の永続的な発現には維持管理が重要であると考え、従って、維持管理の担い手となりうる住民の参画をより一層推進し、適切な維持管理に努められたい。</p> <p>② 河川事業において、一層のコスト削減努力を期待する。</p> <p>(対応結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明和町の赤坂地区において、800mの区間で堤防除草を自治会に委託しています。 ・掘削により発生する残土を堤防盛土材に使用したほか、近隣で実施する他の工事に流用することにより残土運搬にかかる費用を削減し、約3億円のコスト削減を行いました。 	
6. 今後の課題等	
<p>(1) 事業実施による課題</p> <p>アンケート調査結果より、80%程度の方が河川の美化活動に興味があることが伺えることから、草刈り等について、さらに多くの地域住民に参画していただけるような働きかけが必要です。</p> <p>(2) 今後実施する同種事業における留意点</p> <p>長期間にわたる事業では、工事説明会や工事見学会を行うなど、地域住民へ積極的に情報提供を行い、事業の進捗状況等を周知する必要があります。</p> <p>(3) 事業効果の説明</p> <p>事業完了後も約1/3の方が河川の氾濫について「常に不安を感じる」と回答していることから、その内容を把握するとともに、少しでも安心していただけるよう事業効果について説明していく必要があります。</p>	

位置図

